



↑昨年2月、岡山県倉敷市真備町で西日本豪雨の復興支援ボランティア



↑昨年8月、カンボジアの小学校で日本語指導（後列右から3人目）

→旅を語り合うイベント「旅人」（後列右から2人目）



# ボランティア、カンボジア、イベント開催、ゴミ拾い… 行動すれば、必ず成長はある



経営学部経営学科3年 **石川雄也さん**

西日本豪雨災害の支援ボランティア、カンボジアの小学校で日本語指導、旅を語り合う集い「旅人」や「専修大学留学生スピーチコンテスト」といったイベントの開催など、入学から2年の間に多くの行動を起こしてきた石川雄也さん。その活動は評価され、2年連続して育友会奨励賞を受賞している。

入学当初から「何か行動を起こしたい」という思いはあった。だが、何をすればいいかが見えなかった。そんな中で受講したキャリアデザインセンターの「専修大学リーダーシップ開発プログラム」。約半年、チームで企業や自治体とのプロジェクトに挑む特別講座が石川さんの目を開かせた。

「そこでの仲間や社会人の方との出会いは大きかった。刺激を受け、自然といろいろなことに挑戦したくなった」

1年次の9月と2月、西日本豪雨で被害のあった岡山県倉敷市真備町にボランティアとして駆け付けた。1年次の3月にはカンボジアへと飛び、現地の孤児院を訪問。2年次の8月、2度目のカンボジア訪問では現地の小学校で日本語を教えた。

「たった数日、日本語を教えて何の意味がある」。そうした否定的な意見も耳にしたが、それを受け止め、さらに行動を起こしていった。

「現地で見えた子供たちの置かれた厳しい現実を日本



JR 登戸駅周辺でのごみ拾い活動「グリーンバード」。参加者募集中。（後列左端）  
詳細は→



で広く知ってもらうことにも意味がある」

旅を語り合うイベント「旅人」を開催し、カンボジアでの体験を語った。「旅人」はすでに4回を数え、仲間の輪が広がっている。

座右の銘は「良くも悪くも行動しなければ結果が出ない」。行動すれば失敗もするが、必ず成長はあると思っている。そして、すべての経験は「共に活動する仲間や支えてくれる人がいたから」と感謝を口にする。

今、石川さんが力を注ぐのが登戸駅周辺でのごみ拾い活動「グリーンバード」だ。月2回、学生だけでなく地域からも参加者を募って、街をきれいにしている。「ごみ拾いを通して、人との交流を楽しんでいます。静岡から上京して2年間過ごしたこの街が、より思い出深い地になっていくのが嬉しいです」